



# 2018年（第16回） 三首都交流プログラム

---

## 参加者感想文

### 目次

メンバー	P. 1～11
指導者	P.12～14

## 『コミュニケーションの大切さ』

開智日本橋学園中学校 2年

私は、今回のプログラムで改めてコミュニケーションの大切さについて学びました。私はもともと人見知り激しく、初対面の人に明るく声をかけるのがうまくありません。初日も遅刻してしまったのもあり、すごく緊張していました。しかし、一回喋ったら自分でも驚くほど普通に喋れるようになっていました。それからはメンバー同士ですごく仲良くなることができました。

そして迎えた交流会の一日目、その日はみんなでごはんを食べることになっていて、三カ国混ざって食べようとなっている中、やっぱり自分から話しかけに行くのは勇気が必要で、最初はできませんでした。それでも日本メンバーと居たから話しかけることができ、一緒にご飯を食べることができました。その後は、韓国の子たちが写真を撮ろうと言ってくれたり、連絡先なども交換したりして無事に終えることができました。その後は色々あり、他の国の人達と仲良くなることができ、充実した楽しい5泊6日を迎えることができました。中国のメンバーとは今でも毎日連絡を取り合っているし、韓国のメンバーとは、プログラム後に韓国に遊びに行った際に一緒に遊びました。今までアメリカ系の友達がたくさんいたけど、アジアの子は少なかったのも、こんなにも些細な事で連絡を取り合える友達ができて嬉しかったです。

その中でも私が一番思い出に残っているのは4日目の夜、韓国メンバーの女子と日本メンバーの女子で韓国のメンバーの部屋で遊んだことです。最初は少人数で遊んでいたけど、最後はみんなでキツキツになりながら、ベッドに座って遊んでいました。そのゲームは全部初めてするもので、すごく中毒性がありました。隣の人に「愛してる」と言い合ったり、りんごの手拍子ゲームをしたりとまだお風呂に入っていないのに、夜遅くまで遊んでいました。すごく楽しかったので、またみんなでやりたいです。

最後に、私はこのプログラムを通じてコミュニケーションにおいて、語彙力とか語学力も必要だけど、それよりも相手に伝えようとする事とか、言葉の壁を乗り越えることの大切さと素晴らしさを学びました。今後は積極的に話しかけていくのを目標にし、違う国の人にもその国の言葉がわからなくてもできる限りのことをしようと思いました。

## 『三首都交流を通じて感じたこと』

新宿区立西早稲田中学校 2年 （サブリーダー）

このプログラムに参加できたことは私にとっての誇り、そして将来に向けての大きな経験となりました。

もちろん以前から赤十字活動にはとても興味がありましたが、北京、ソウルなどに関しては、さまざまなイメージしかありませんでした。それを、今回、柔軟な気持ちで挑むことで本当に多く沢山のことを吸収し、学べました。普段は緊張などから、なかなか自分から積極的に行動することが出来ないことも多かったのですが、今回、自分の意思で、積極的に動けたことが私にとっての大きな自信になりました。

TOSEBE を通して私が学んだことは、とにかく交流を取ろうとする気持ちが大事だということです。いざ外国メンバーと話そうとしても、なかなか英語は口から出てこない、だからこそ身振り手振り、または簡単な英語など、さまざまな手法を使い相手に伝えようとしているということ。その気持ちが相手に伝わることで、互いに歩み寄りコミュニケーションを取ることができるのだと分かりました。ただこの経験は、それに甘えてばかりでなく、これから先もっと外国語を勉強してより深く交流したいと強く思わされた経験でもありました。また、そういった対海外とのこと以外でも、血液センターや地震体験など、私も知らなかったことを一から学べたことが個人的に嬉しかったです。

TOSEBE では学びもそうですが、掛け替えのない仲間が出来たことが何より印象深い思い出となりました。はじめこそ緊張はしていたけど、仲良くなれて本当に良かったです。でも北京、ソウルのメンバーとこんなに強い絆で繋がることが出来るとは思っていなかったのも今でも驚きだし、ものすごく嬉しい経験です。一緒に apple game をしたり、沢山写真をとったりしてとても楽しかったです。写真フォルダが彼等との思い出でいっぱいです。また、ソウルメンバーが韓国の日本へ持っている良い印象や悪い印象を教えてくれて、そのことについてお互いに話しました。互いに TOSEBE で変わった印象も伝え合ったりすることでより絆が強まりました。これもまた今までにない印象深い体験でした。

キャンドルセレモニーでは、正直に言うとその直前まで楽しすぎて、ずっとワクワクしていました。けれども、キャンドルを置いて、1人1人とハグをしていくうちに「別れ」を実感しました。すると本当に急に、その気持ちに気づく前に涙が出たのはよく覚えています。あんなに涙が止まらなかったのは初めてで、自分でもびっくりしました。きっとあの時のことは一生忘れません。

そして、私が積極的にこのプログラムで学び楽しむことができたのは 16th の日本メンバーと先生方、スタッフさんと一緒だったからだと思います。TOSEBE を通して出会えた事が本当に嬉しいです。

これから先、成人しても赤十字やボランティア活動に精一杯取り組むことで、ここで出会えた方と交流し続ける事ができれば良いなと思います。

## 『三首都交流を経て』

墨田区立両国中学校 1年

私は、将来人を助けたい、人の役に立ちたいという希望がある。そのため、学校ではボランティア部に入り、ボランティア部を通じてこの三首都交流プログラムに応募し参加することとなった。実は英語に関して言えば、この4月に中学校に入学して始めたばかりで、韓国語、中国語も「ニーハオ」「謝謝」「カムサハムニダ」のみなので、言語では少ししか交流ができないと思っていた。ただ、持ち前のこの性格（ご想像にお任せします）とジェスチャー力で対応するつもりで応募した。

事前研修では、年上ばかりの日本メンバーに助けてもらいながら、海外メンバーを楽しませるための打ち合わせや練習をしていく中で、日本メンバー同士の絆を深め、初日を迎えることができたと思う。

国際交流にあたり、私は、中国と韓国は日本の隣の国であり、見た目も他の外国人と比べると日本人にそっくりなため、性格や習慣、価値観などの中身も日本人とそっくりなものだと考えていた。しかし、この交流プログラムにひとたび参加してみると、意外にも日本人との違いが多いことに気づかされた。

まずその驚きは初日からやってきた。それは化粧。日本では、化粧をしている女子高生は見たことがある。しかし、韓国メンバーは、女子はもちろん男子も化粧をしていた。特に鼻の周りは念入りに白いものをぬっていた。韓国は美容大国だと聞いたことがあるが、それは大人やアイドルグループの話だと思っていた。しかし同世代の一般人にも当てはまるものだと初めて知った。

また、韓国メンバーも中国メンバーも男女関係なくボディータッチを含めたコミュニケーションをしていた。私たち日本人は、同性同士の友達では、しばしばじゃれ合うが、男女の友達では遠慮してしまう。だから、男女問わず両国メンバーからボディータッチされた時には本当に驚いた。欧米のようだなあと思った。

その一方で共通点も発見できた。

日本の中高生同様、みんなスマホを持ってきていたし、中国ではマリオ、NARUTOなど日本のアニメやゲームが人気があるようだった。また、韓国ではアイドルグループがたくさんいるようで、みんな歌ったり踊ったりしていた。

日常生活の中では、韓国メンバーは集合するときに、人数分のペットボトルを持ってきてくれたりと、気遣いを感じた。中国メンバーはエレベーターで僕の部屋の階のボタンを押してくれて親切だった。優しさと言う共通点はどの国も変わらないものだった。

今回の三首都交流を通して、韓国は生活習慣や文化が日本と近いと感じたが、中国はより違いを強く感じた。でも、世界中のどの国も、考え方や習慣、価値観に違いがあるのは当然のことなので、その違いに戸惑って身構えることなく親しみを持って接していき、打ち解けていくことが重要だということ学んだ。とても貴重な体験ができて僕はうれしい。

## 『一生の宝物』

荒川区立南千住第二中学校 2年

私はこの三首都交流プログラムでたくさんの素晴らしい思い出と、かけがえのない友人ができました。

初日のウェルカムパーティーでは、中国・韓国メンバーと仲良くなれるのか、日本の代表として失礼がないかと、とても不安でした。しかしその不安は初めだけでした。言葉が通じない場面では英語やジェスチャーを使って会話をしたり、気持ちを伝えることができました。お互いの表情を感じ取ったり、自分の表情をいつもよりオーバーにしたりなど工夫をしながら会話をすることができました。伝えたいことが伝わった時、相手が言っていることが理解できた瞬間は安心でき、とても嬉しかったです。

2日目はグループに分かれてペットボトルキャップでアートしたり、折り紙を一緒に作ったりして、とても仲が深まった1日だったと思います。そしてこの日の夜、中国メンバー・韓国メンバーとたくさん写真を撮り、会話も盛り上がりました。ホテルに帰ってきた後に日本メンバーとそれぞれのグループでどんなことがあったのかをたくさん話しました。

3日目はバスで移動し、血液センターの見学をしたり、そなエリアを訪問したりしました。その日の夜は中国メンバー・韓国メンバーと一緒にトランプをしたり、中国・韓国で流行しているゲームを教えてもらい、一緒にしました。この時に中国メンバーの1人が「日本はとても良い国で大好き！」と一生懸命日本語で伝えてくれたことがすごく嬉しく感動しました。

4日目は浅草をグループで回りました。雷門で写真を撮ったり、美味しいかき氷をみんなでシェアして食べたり、楽しい時間を過ごすことが出来ました。日本のお土産や浴衣など日本文化によりふれる機会があり、中国メンバー・韓国メンバーが喜んでいる姿を見て、改めて日本の良い所をいろんな国の人達に知ってもらいたいなと思いました。そして、午後は、文化紹介をしました。たくさん練習してきたダンス。本番では各国メンバーがとても盛り上げてくれたので1番上手く出来ました。私も楽しい気持ちでダンスができたので良かったです。中国メンバーは、歌が凄く上手で感動しました。韓国メンバーは、韓国グループの有名なダンスをされていてカッコよかったです。

5日目は、グループに分かれて原宿・渋谷を回りました。韓国・中国メンバーとは、親友のように仲良くなれました。明日でお別れだと思うと、とても寂しく悲しくなりました。

そしてキャンドルセレモニーの時、メンバー1人1人と握手してハグする時顔を見る度にメンバーとの思い出がたくさん出てきて涙が止まりませんでした。最終日、台風で日本メンバーは最後まで見送ることができませんでした。だから、空港と一緒にいた時間を大切にしました。そして、また会おう！と約束しました。

私は、このプログラムで言葉が通じなくても一生懸命通じるようにしていたら通じることが分かりました。このプログラムが終わっても中国・韓国メンバーとは連絡を取っています。ここで出来た友達は一生の友達です。

## 『伝えたいこと』

学習院女子高等科 2年

私は、今回の首都交流プログラムで多くのことを学ぶことができ、参加させていただいたことを心から感謝しています。

私は将来、看護師になり発展途上国や紛争地帯の人々を助けたいという夢があります。そのために、言語が違う人たちとのコミュニケーションをすることや文化が違う人と交流するこのプログラムは私にとって大変貴重な体験となりました。

今回私たち日本人メンバーは中国と韓国の方々をお迎えするという立場となりました。私は、言語や文化の違う各国のメンバーにどうやっておもてなしをするか、とても考えていました。そして、事前研修を重ねる中で、「中国や韓国の言葉や習慣を理解し、進んで話しかけることが大切なのだ」と感じるようになりました。日本語であふれる東京で少しでも相手の言語で話しかけたら安心するだろうと思ったからです。そして、日本メンバーで話し合いを重ね、ウェルカムパーティーで中国と韓国の歌を歌っておもてなしの気持ちを表そうということになりました。

私は今回のプログラム中に、私が行っている日々の活動を中国・韓国のメンバーに発表する時間をいただきました。私は今、校内のボランティア同好会で福島に関する活動を行っています。7年たった今だからこそ、福島のことを思い続け、現地を訪問して福島の魅力を発信する活動を行っています。私は、発表を通して福島の現状をお話しするとともに、東日本大震災の際、中国や韓国の方々がたくさんの支援をしてくださったことへの感謝の気持ちを、両国のメンバーに伝えることができました。私は、日本・中国・韓国はこれからもお互いに助け合っていくような存在でありたいと思いました。

ある昼ごはん、両国メンバーと同じテーブルに座った時のことが、一番心に残りました。私は何気なく、「日本に初めて来たときの印象はどうだった？」と質問すると、中国のメンバーが「日本という国も、日本人の心もとてもきれいだった」と答えてくれました。韓国のメンバーも、「日本に来て日本のことがもっと好きになった」と言ってくれました。私も、中国のメンバーに横浜中華街の話をしたり、韓国のメンバーに韓国アイドルが人気なことを話したら、みんな嬉しそうにしてくれました。

日本・中国・韓国には歴史があり、その歴史はとても長いです。しかし、その歴史は良いものばかりではありません。また、その歴史を私たちは教科書や人から聞くことしかできません。実際に見たり、聞いたり、感じたりするのは、今生きているこの瞬間であり、それが国際交流なのだと思います。私は両国のメンバーと直接話をして感じたことを、今度は多くの人に発信していきたいと思いました。

今回の三首都交流プログラムでは赤十字の職員や先生方をはじめ、通訳ボランティアやOGやOBの皆様にご世話になりました。今回のプログラムで学んだことを忘れず、これからもJRCメンバーの一員として様々な活動をしていきたいと思っております。

『未来のために学んだ事』

東京韓国学校高等部 2年 （リーダー）

私は今年、三首都交流という、国際交流を行なった。そこで私は韓国と中国の文化や言語など、多くの事を知る事が出来た。そして、赤十字という同じ志を持つ、“国際的な仲間”を作る事も出来た。お互いの価値観や新しい点を知る良い機会になったと思う。

私は、日本で生まれた韓国人、いわゆる在日韓国人（1世）である。最初、私は不安を感じていた。“韓国人が日本メンバーとして参加して良いのか、私のせいで違う日本の方が参加できなくなってしまうのではないのか”という不安だ。しかし、私は見事に三首都交流日本メンバーに選ばれ、その上、日本メンバーのリーダーという大役も任された。嬉しさと焦りと緊張が私の心で渦巻いた。だが同時に、ワクワクする自分がいた。韓国人として、日本語と韓国語で言語の壁を超えている自分。そして、英語で中国の方々とコミュニケーションをとる自分を想像すると、早く交流したいと思う自分がいた。そして、交流会が始まり、案の定、私は韓国語が喋れる日本メンバー、そして、韓国人という仲間として、韓国メンバーと日本メンバー、そして、韓国語と英語で中国メンバーにも韓国語を教える事が出来た。英語に自信がなかった自分が母国語を英語で伝えられている事に感動した。

そして、私が生まれ育った日本の事も説明ができ、嬉しさも2倍になった。日本、韓国、中国の多種多様な文化や言語、そして、固い絆を結ぶ事が出来た。そして、キャンドルセレモニーの時、ある1人の中国メンバーに“You are special. I want to be like you.”と言われた。涙が出るところだった。国や文化も言語も違はずなのに、私は認められたような気がした。それが何より嬉しかった。そして、韓国メンバーからも“ヒョンジュンがいて、本当に良かった。同じ韓国人として、君を誇りに思う”と言われ、静かに泣いた。私が当初感じていた不安が希望に変わった瞬間だった。そして最終日、韓国と中国のメンバーを見送る時、私は“世界がどう動いても、私はあの子たちだけは信じる”と誓った。人が人らしく、そして赤十字精神を心に刻み、未来の創生者となるための心構えを今回の三首都交流で知ることができた。この経験を次の代の参加者に残せる様に、これからも赤十字の一員として、活動していきたい。

『三首都交流に参加して』

下北沢成徳高等学校 1年

このプログラムに参加し、他国の人たちと交流する前に、このプログラムに参加する日本人メンバーで、日本の文化紹介をするための練習や2カ国の言語で日本人メンバーが歌う歌の練習、2カ国の言葉や知っておかなくてはならないマナーなどを学びました。毎週日曜日に日本人メンバーに会い、みんながとても仲良く事前研修をすることができました。

三首都交流プログラム当日、各国のメンバーが羽田空港に到着して私たちのいる東京都支部に来ると聞き、ずっと楽しみにしていたのにすごく緊張してしまいました。そんな中、2カ国のメンバーが到着し、拍手で迎え入れ、歓迎パーティーを行いました。歓迎パーティーのときにちょっとしたゲームを行いました。2カ国の人たちと少しの間にいろいろ話すことができました。ですが、まだ会って数時間しかたっていないため、自分から話しかけることがなかなかできませんでした。

2日目、ホテルから近い中学校に行きました。そこで各国2人ずつ3カ国、計6人でその学校の見学をしたり、ペットボトルキャップアートをしたり、お昼ごはんを食べたりする中で自分が知っている単語を並べたりして自分の趣味や他の国のことで気になっていることなどを話しました。

3日目は防災施設に行き、災害の恐ろしさなどを学びました。その際昨日とは違うグループにわかれ班別行動をしました。防災についてのゲームなどで遊び、防災について知ることができました。そして夕方から大江戸温泉物語へ行き、全員浴衣で足湯をしたり、夜ご飯を食べたりしました、日本人メンバーが2カ国の子達に浴衣を着せてあげたりして、とても楽しかったです。

4日目は浅草に行き各国2人ずつのグループに分かれ浅草を楽しみました。お昼はお好み焼きともんじゃを各テーブル自分たちで作りました。はじめに日本メンバーがお手本を、と言われ、「もしも失敗したらどうしよう、おいしくなかったらどうしよう」と思いながら作り、2カ国のメンバーに食べてもらったところ、「ベリーデリシャス」と言ってもらい涙が出るほどうれしかったです。その日の夜、各国の紹介やダンス、歌などを披露しました。

最終日に日本メンバー全員で空港へ2カ国のメンバーを送りに行きました。

空港に着き、あと1時間でお別れと聞き、残りの時間たくさん話したり写真を撮ったりしていました。そしてみんなと話している最中に残り15分と言われ、自分の中ではまだ少ししか時間がたっていないと思っていたので、別れがとても悲しすぎて自然と涙が大量に出てきました。まさかこの短期間で3カ国30人の友達ができるなんて想像もしていなかったし、別れがこんなに悲しいだなんて想像もしていませんでした。帰りのとき私を含む多くのメンバーが涙を流していました。涙が出るほど別れたくないのは本当に楽しめたからだと思います。とても貴重な経験ができ、今後今回で学んだことをまずは日常生活から活かしていこうと思います。



『感謝と決意の夏』

十文字高等学校 1年

このプログラムは私にとって自分の夢を決意させてくれた、何ものにも代えがたい大切な経験となりました。

私が今回三首都交流プログラムに参加する前、私は将来、医療系の仕事に就きたいなどという大まかな将来像しか持っていませんでした。でもこのプログラムに参加して、私は医師や看護師など人間を平等に助けることができる仕事に就きたいとはっきりと思えるようになりました。

それは、お台場にある防災体験施設、“そなエリア”でいつ起こるかわからない首都直下地震を想定して作られた簡単なアニメを見たことでした。多くの怪我をした人たちが映し出されているのを見て、もし私が医師として治療をできる立場だったらと考えたからです。赤十字活動のように、国境を越えても「誰かを助けたい」という思いや助けるための手段は世界共通のものだと思いました。

今回の私の目標は「今回の三首都交流プログラムのメンバー全員と話し交流を深めること」でした。私はこの目標をしっかりと果たせるように努力したつもりです。交流を通して私たちは皆、お互いに国境を越え、同じ人間として、学生として本当にかげがえのない仲間になりました。

期間中、会話はほとんど英語でした。私は他のメンバーに比べて、正直英語をあまり上手に話せませんでした。しかし、他国のメンバーが理解してくれようとしてくれたため、私ももっと伝えたい、もっと深く話したい、という思いも持つようになりました。英語をこれからもっと勉強していきたいと思いました。

また、他の国のメンバーが中国語や韓国語でコミュニケーションを取っているのを見て、英語だけではなく、もっとたくさんの言語に触れたい、学んでみたいという思いも私の中に生まれました。

私は二日間、韓国メンバーの子と同室で過ごすことができました。最初は、お互いとても緊張していましたが、二日目になると、お互いの国のお菓子を交換しあったり、その日のことについて話し合ったりと私にとってその子は一番初めの友人になりました。

このプログラムの5泊6日は私にとって一瞬の出来事でした。最終日の夜は、眠り、朝が来てしまったらみんなと離れなくてはいけなくなってしまうと本当に悲しく、もっとずっと一緒にいたいという気持ちが強くなりました。参加前はきっとこんな気持ちになるなんて思ってもいませんでした。それ程このプログラムはみんなとの深い思い出を私の中に残してくれました。

このような機会を与えてくださった東京都支部、事務局、指導者、ボランティアの方々をはじめお世話になったたくさんの方への感謝の気持ちを忘れずに、このプログラムで学んだことをしっかりとこれからの人生に活かしていきたいと思います。また、今回の学びを学校やこれから赤十字メンバー協議会などで、これから赤十字に関わるたくさんの人に伝えていきたいと思います。

そして最後に、事前研修の時から一生懸命このプログラムと一緒に作り上げた日本メンバーのみんなに心から感謝したいです。

今回のプログラムにメンバーの一員として参加できたことは私の誇りです。ありがとうございました。

## 『三首都交流プログラムを終えて』

巢鴨高等学校 1年

このプログラムに参加する前に僕は去年先輩が参加していたから、今年は自分が参加しよう程度にしか考えていませんでした。しかし、実際に参加してみたら、かけがえのない時間が過ごせました。

最初に会った時には、みんながどんな人かわからなかったし、自分が男子校だということもあって、女子や共学の男子にどんな感じで接したらいいか、まったくわからなかったです。だけど、みんないい人だったので、すぐに打ち解けられたのかなとは思いました。その中で結構困ったことがあって、K-POPが好きな子が多くて正直全く興味がなかった自分としてはどうしようかなって思っていました。そんな自分ですが、今はK-POPが思い出の曲になってしまい、結構聞くようになりました。また中国と韓国の歌を歌うことになり、そのときが大変苦労しました。日本語とは違い覚えにくかったので、歌詞なしでは終わった最近になってやっと歌えるようになったくらいです。けれど、歌った時の反応はよかったので嬉しかったです。

実際プログラムが始まった時の話に移ります。最初のアイスブレイクの時にやったゲームで自分と韓国の男子メンバー「スシ」が罰ゲームになった時がありました。その時にボランティアの人に「踊る？」って聞かれて、彼が「踊る」って言っちゃったので、踊ることになりました。しかも彼一人で踊るのではなく韓国の他のメンバー三人と一緒に踊って、センターが踊れない自分という状況になってしまい、とても恥ずかしかったです。そのおかげで緊張はほぐれたので良かったかもしれないです。

次に思い出深いのは、夜にみんなでトランプで遊んだことです。だいたい自分の部屋にみんなが集まってババ抜きで遊びつつ喋る感じでした。みんなと一緒に遊べてとても楽しい時間でした。浅草の和風旅館でトランプをした後に、ボランティアの人たちと喋って仲が良くなったのが嬉しかったです。次に印象に残っているのはカルチャーショーです。韓国は歌とダンス、中国は歌と中国の伝統的な楽器を披露してくれました。そこでの韓国メンバー「スシ」のダンスはカッコよかったし、中国メンバー「ジョジョ」の歌が上手だったのが印象的です。五日目に渋谷、原宿をまわって、109に行きました。そこは女性向けの店ばかりであまり楽しめなかったです。けれど原宿ではクレープを食べたり、ギャラクシーのお店でVRを体験できたりと大変楽しかったです。そのあと、寄せ書きを書きました。全員からはもらえなかったけど、一言ずつもらえてもう終わりなんだと寂しく思いました。中国メンバー「ブラック」に身長が低いって書かれたのが少しショックで印象的でした。最後にキャンドルセレモニーでみんなと言葉をかけあいながらハグしたときに泣いてしまいました。それほどまでに楽しく、何度でもやり直したい時間でした。自分の言葉じゃうまく伝えられないですが、考え方が変わるくらいの体験でした。また三年後もみんなとボランティアとして参加したいです。最高の六日間をありがとう！

## 『生涯の友ができた』

武蔵野中学高等学校 2年

今回のプログラムに参加したことで数え切れないほど多くのことを学びましたが、特に言語の大切さは身に沁みてわかりました。英語には苦手意識がありましたが、自分の知っている単語を繋げたり、ジェスチャーを交えたりしながら会話を楽しむことができました。英語が好きになったこと、話す前にまず英語ではどう言ったらいいかを考える習慣がついたことは、とても大きな収穫となりました。また、たった一つの単語でも韓国語・中国語を話すと、それをきっかけに仲良くなることができたので、英語はもちろん、その他様々な言語を学ぶことへの興味がわきました。

初日のウェルカムパーティーで歌った2曲「Talk Love」、「学喵叫」の披露では、慣れない言語の歌に苦戦し、途中変更を繰り返しましたが、思いのほか大成功だったと思います。特に「学喵叫」は中国メンバーのほとんどが知っていたようでとても盛り上がりました。日本のおもてなしの心が伝わっていたら嬉しいです。

今回は日本が開催国だったので、茶道体験や和風旅館への宿泊など、日本人である私でもしたことがなかった体験があり、日本文化について、深く考え直す良い機会になりました。

しかし同時に、世界は広い、ということを感じました。今まで日本を中心にしか物事を考えていませんでしたが、今後はもっと世界に目を向けていきたいと思いました。

そして、韓国・中国に対するイメージがまるっきり変わりました。多少の文化や考え方の違いはありましたが、私の拙い英語を理解しようとして真剣に聞いてくれたり、手伝おうか？と声をかけてくれたり、みんなとても優しくかったです。韓国・中国メンバー全員と交流するため、食事や移動の際に一緒になるメンバーはなるべく毎回変わるように気を付けていたので、一人一人と仲良くなることができました。

5日目に行われたキャンドルセレモニーと、最終日の空港では涙が止まりませんでした。全員と抱き合って、一人一人と別れの言葉を言い合いましたが、私はあえて、「またね」と言いました。絶対にいつか再会できることを信じています。お互いに連絡先は交換できたので、今後もやり取りを続けて交流をより深めたいです。メンバー30人が、私にとってかけがえのない生涯の友となりました。

そして、研修から始まり、プログラムの6日間、昼も夜もずっと一緒に過ごしてきた日本メンバーとは、本当の意味での仲間になれたのではないかと私は思っています。

6日間の1分1秒全てが私の人生において大切な宝物です。

今後も赤十字ボランティアの活動を続けていきたいと思うきっかけには十分すぎるほど素晴らしい経験をさせていただきました。今回このプログラムに参加できたことに心から感謝しています。

もしも機会がありましたら、3年後のTOSEBEでは運営ボランティアとしてまた参加させていただきたいです。ありがとうございました。

## 『青少年赤十字交流プログラムを終えて』

新宿区立西早稲田中学校 副校長 （東京代表団団長）

私は4年前、本プログラムの東京代表団団長としてソウル市を訪問いたしました。その際、大韓赤十字ソウル特別市支社の皆さま並びにRCYの指導者の先生方に大変お世話になりました。その恩返しと思い、今回TOSEBEの東京代表団団長をお引き受けいたしました。前回参加したSEBETOでは、韓国の歴史や文化を学ぶことができ、さらにソウル市での青少年赤十字活動を体験させていただきました。短い期間ではありましたが、多くの成果と思い出を残すことができました。

今回、ソウルや北京の皆さまをお迎えすることになり、しっかりとおもてなしができるか、充実したプログラムを実施できるか、大きなプレッシャーを感じていましたが、東京代表団の研修を重ねているうちに、しだいに大きな楽しみに変わってきました。今回、「寄り添う心で 国境を超えろ～おもてなしの心をもって笑顔を増やし、3国の文化や良さを分かち合って、国境を越えた青少年の絆を作ろう。」を目標に取り組みました。参加した生徒は各々課題をもって、5泊6日のプログラムを1日1日シミュレーションしながら、どのようにしたら喜んでくれるか、楽しく交流できるかを何回も話し合いを重ねてきました。また、生徒たちが行き詰ったりしたときは、東京都支部の職員の方々が様々なアイデアを出してくれたり、アドバイスをしていただいたり、生徒をいつもサポートしてくださいました。そのおかげもあり、「チーム東京」としてソウル・北京の皆さんを迎える準備を進めることができました。

その成果は、本番のプログラムで大いに発揮されました。歓迎の歌のパフォーマンス、JRC加盟校訪問、文化交流の発表等々、ソウル・北京から参加したメンバーのリアクションから今回の交流は大成功だったと感ずることができました。また、東京のメンバーも個々の成長だけでなく、チームとしての成長を見ることができたことは、団長としてうれしい限りでした。さらに、うれしいことは、今回のプログラムを支えてくれたボランティアメンバーが、本プログラムのOB・OGだったことです。楽しみながらも、参加者をどうサポートしたらよいか、何かできることはないか等々、懸命に取り組んでいる姿を見て本当に感動しました。代表生徒だけでなく、OB・OGを含めて、本プログラムが青少年の成長に大きな役割を果たしていることが証明されていると思えました。これからも本プログラムが、より一層青少年赤十字活動の充実に寄与できるよう、工夫改善しながら大事に育てていただきたいと切に思う次第です。

最後に、今回のプログラムを無事に終えることができたのは、日本赤十字社東京都支部中川原事務局長はじめ支部職員の皆様のご尽力のおかげと心より感謝申し上げます。

## 『交流の価値』

墨田区立両国中学校 主任教諭

今から3年前の2015年、本校の生徒が初めて三首都交流プログラムに参加させていただいた。それから今年まで4名の生徒が本プログラムに参加し、体験を通して学ぶと共に学んだことを周りの生徒に伝えてきている。

今年、指導者として参加させていただくにあたり、知りたいことがいくつかあった。その中でも最も大きな疑問は、本プログラムがもつ魅力（可能性）についてである。なぜなら、これまでに参加した生徒が3名ともに口をそろえて参加後、「参加できたこと自体に感謝します。」と言っていたからだ。そして、彼女たちはそれぞれ次年度に参加を希望する生徒に対してのアドバイスを行ってもくれた。その姿からは「百聞は一見に如かず」とにかく参加して体験の中で学んでほしい。という強い思いや参加者だけがわかる交流プログラムの魅力を伝えたい。という彼女達の強い思いが伝わってきた。そしていよいよ、事前学習から私の謎解きが始まった。まずわかったこと、それは東京参加者の課題意識の高さだ。年齢の違いがあっても、それぞれが自分の身近な課題に関心をもって、解決に向けた取組を実践していた。そして、それを堂々と紹介し共有しあっていた。自己紹介から、東京参加者は共にわかり合える仲間との出会いを楽しんでいるようにも見えた。交流プログラムの魅力一つ目は、東京参加校生徒の意識の高さと団結力にあると初日から学び、今後の活動にも期待が高まった。初日に学んだことがもう一つある。交流プログラム参加経験者や通訳ボランティアの活躍だ。中学生から大学生までが、とても自然に楽しみながら、参加者の学びを支援する姿を目にし、ただただ感心した。そして、ここにもプログラムの魅力を発見した。「一度きりの体験ではない」ということだ。何年経っても、参加者同士が繋がっていてプログラムを支える立場で参加することができる「同窓会」のような役割も担い、過去の参加者達がよりよいプログラムを創ってきている。始めることよりも続けることのほうが大変だとよく言われるが、続けることを可能にしているボランティアの活躍と日本赤十字社東京都支部をはじめ、北京、ソウル各支部の職員の方々や赤十字社の活動を支えている人の力も含めて、これも魅力だと気付くことができた。

そして、いよいよ始まった交流でも多くの魅力を発見することができた。「言葉の壁」「文化の壁」は確かに存在していたが「体験の共有」「笑いの共有」そして何より、その全てを体感する「時間と空間の共有」によって壁すらも、貴重なものではないかと感じた。実際、参加者やボランティア、職員の方々の高い意識をもってすれば、言葉や文化の壁は多文化理解に繋がるのだと感じる場面が多くあった。例えば食事中の会話である。「美味しい」をそれぞれの言語で伝え合ったり、料理について質問したりと、次から次へと話題が変わっていた。そして必ず笑顔があった。私自身も、ソウル・北京の指導者の先生方と通訳の方を介しながらも赤十字活動や各国の学校教育について、文化について等々多くのことを教えていただき、かつ日本の教育（道徳教育について聞かれることが多かった）について伝えることができた。また、移動中の車内や訪れた施設内では本当にふとした疑問から会話が広がったり、意外な感想を聞くことができたりと、感じ方や考え方まで含めた

互いの文化を理解し合うことができたと感じている。そうして5日間の日程が終了する頃には、別れがたい存在になっていた。私の魅力探しも終わりの時を迎えたとき、次は自分なりに学んだこのプログラムの魅力を伝える役割が託されたと強く感じた。来年度以降、参加される先生方や生徒達に伝えたいことは三首都交流プログラムの魅力は、参加したからこそわかることが多いものであり、参加すれば必ず、また次の参加者へと伝えたいものだという事である。生徒には是非、同じ高い意識をもった仲間との交流、文化の相互理解を肌で感じ、気づき・考え・行動する力につなげてほしい。指導者の先生方には是非、いきいきと活動する生徒の姿を間近に見ながらご自身の学びの場にしていただきたい。そしてこのプログラムに携わり、魅力を知った「仲間」としてお目にかかれることを期待している。